



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中!…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内
Web URL : <http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/>

TEL/FAX : 0467-47-1164 木曜を除く 10時~16時
E メールアドレス : ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

(写真左)かまくら子育て支援グループ懇談会主催「サトイモとどろんこ」



(写真右) 深沢小5年 収穫祭



谷戸では多くの感動がいっぱい!

谷戸の賑わいは、なんといっても幼児グループから、学生、若手ボランティアが農作業に携わるときが一番です。農閑期に入っても続々と団体申し込みがあり、会報ですべては報告できないほどでした(5・6 p)。そして圧巻は、深沢小学校から授業の一環として体験学習に訪れる「米作り」の5年生です(6・7 p)。記事をお楽しみください。

もくじ

- ☆各班からのお知らせ →2・3p
- ☆谷戸の自然だより →4p
- ☆谷戸往来 →5・6p
- ☆谷戸の体験学習 →6・7p
- ☆1~3月の日程表(裏表紙)

春の七草&とんど焼き 1/14(月・祝)

2時半~野外生活体験広場(少雨決行)

※引き換え券の頒布があります。

※団子、七草粥は数に限りがあります。

※お椀・お箸をご持参ください。

各班からのお知らせ



田んぼ班

★1/13(日)堆肥の切り返し・粃殻くん炭
★20(日)、27(日)苗床の耕し・粃殻くん炭

今年も大勢の参加者の汗と自然の力で田んぼはたくさんの恵みをもたらしてくれました。本当に有難いことです。みんな、みんな、ありがとう。お米はもちろん、稲藁、粃殻、糠、すべてを大切に有効活用しています。稲藁の半分以上は切って田んぼへ撒いたり、堆肥作りに使っています。お正月飾りも作りました。1月からは粃殻くん炭を作り始めます。

畔の補修は予定通りには行きませんでした。大きな穴だけは塞ぎました。ほっとしたのも束の間、もう来春の作付けへの準備が始まっているのです。



11/18 粃すり



畑班

★1/6(日)堆肥作り★13(日)堆肥置き場の整備 ★20(日) 畑の荒起こし・整備
★27(日)小麦畑の草取り・土寄せ



12/2 たくわん大根の収穫

実りの秋はさつまいも、さといも、小豆、落花生、大根、たのくろ豆など収穫が続き、その出来のよし悪しに喜んだりがっかりしたりしましたが、それが一段楽すると、今度は空っぽになった畑を次に植付ける作物のために準備する作業が始まります。堆肥作りや畑の荒起こしなどで身体を動かすと寒さが吹っ飛び、心地良いのがこの季節です。

また小麦の麦踏みも冬ならではの風物詩のような作業です。1人ですると辛い作業でも、みんなでやると実に楽しくなるのが畑の不思議な魅力のような気がします。



雑木林管理班

★1/13(日)竹切り、20(日)、27(日) 畑周辺の除間伐

すっかり葉が落ちて明るくなった雑木林手入れの季節になりました。除間伐をはじめ、コナラ・クヌギの幼木の移植、苗木の育成などにも取り組んでいます。また、スギ林の手入れの時に伐採したスギ材を使った、堆肥置き場の修繕などの仕事もあります。寒い中での活動ですが、みなさんの熱気で寒さを吹き飛ばしましょう。



12/16 雑木林の除間伐



農芸班

★2/8(金)味噌作り



11/30 たのくろ豆の殻出し

たくさんの方のご協力で、たのくろ豆の殻出しを終えることができました。2/8(金)「味噌作り」の日に、殻から取り出した豆を茹でてお待ちしております。市販の味噌は機械で豆をつぶすため細かく碎けてしまいます。手作り味噌は手でつぶします。たのくろ豆や麴の粒が手作業だからこそその味わいとして残ります。あたたかみのある手作り味噌を仕込んでみませんか。

～参加者の声～ 昨年の味噌の仕込みに参加しました。味噌に使う「たのくろ豆」も谷戸の畑ででき、谷戸まつりでほかの谷戸の実りとともになべになって振る舞われるというお話に、おもわず喉がごくり！と鳴りました。やわらかく茹で上がった豆を、手分けしてすり鉢ですりました。日頃あまり使わないすり鉢とすりこぎですが、思わぬところでみな様からほめられました。私の故郷の岩手では、お正月にクルミや黒ゴマをすって餅にからめて食べるのですが、それらを「する」作業は父と私たちの担当で、父にコツを教わりながら作業したのが懐かしい思い出です。無事仕込みがおわり、広々とした谷戸の景色を眺め、谷戸の梅干をいただき、談笑しながら持参のお弁当を食べたのも楽しいひとときでした。スタッフのみな様の、山崎の谷戸に寄せる思い、文化を継承していこうという意欲に心を動かされました。鎌倉に転居して十数年の間に驚くほど街の様子が変わっています。大事な日本の里山の風景と文化を未来につなげるご尽力をされているみな様にお礼を言いたい気持ちとともに、またぜひ催しに参加させていただくことを楽しみにしております。(坂野智子)



自然遊び班

11/18(日)、12/9(日)「父と子の里山体験」では、冬の雑木林で、木の伐採・枝打ち・薪割り・植樹・ドングリの種植えなど、さまざまな体験をしました。木の伐採では、参加者のみなさんが「うまく倒れた」「迫力がすごい」と感動していました。



11/18 雑木林に親しもう

★1/20(日)・2/3(日)連続企画 こども里山一日体験「ヒメコウゾで紙漉き」 【雨天の場合翌週へ延期】

谷戸に自生するヒメコウゾで紙を漉きます。木の皮から紙になるまでの一連の流れを体験しませんか。昔の人の暮らしの知恵に驚きますよ。

★2/17(日)父と子の里山体験「かまどで火起こし体験」

かまどの火はどのように燃やしてゆくののでしょうか。マッチを摺ってみんなで火付けに挑戦しましょう。



生態系保全班



ヤマアカガエル

★1/7(月)野鳥の観察、27(日)野鳥を教える

★2/13(水)カエルの卵の観察

山崎の谷戸は鎌倉市で一番カエルが多い場所です。冬も水が抜けない田んぼなので作業は大変ですが、田んぼを維持している成果でアカガエルが数百個も卵を産みます。田んぼがほとんどなくなった現在、ヤマアカガエルとニホンアカガエルの2種類が産卵する、市内唯一の場所になってしまいました。2月の雨の降る夜や“春一番”が吹き荒れた翌日に一斉に産卵します。

今年もアカガエル類の卵の数の調査をして、今までのデータと比較してみます。



植物育成班

野草の多い土手を手入れしながら、春の野草の芽生えを観察しましょう。昔から草刈りをして土手を大切にしてきた場所には、スミレやヤマユリなどが花を咲かせます。里山が公園になっても、昔ながらの草刈りを継承していくことで、野草を守っていきましょう。植物育成班では地元の野草を種から増やす活動もしています。

★1/16(水)湿地の枝払い

★21(月)野草生育地の手入れ



土手の手入れ

谷戸の自然だより

～今年の冬は鳥が多い～

11月～12月は安定した天気が続くはずなのに、台風並みの強風や大雨など荒れ模様の天気が続きました。昨年の冬は野鳥が異常に少なく心配されましたが、今年は全体的に、越冬しに来る野鳥の数が非常に多いようです。シベリアからやってくるカシラダカという小鳥の群れが50羽以上も小段谷戸の田んぼに来ています。大きな群れが来たのは数年ぶりです。その他、ウソなど普段の冬はなかなか見られない野鳥もよく見かけます。

～雑木林（落葉樹）と原生林（常緑樹）～

谷戸でよく話題になるのが雑木林の手入れです。さまざまな考え方がありますが、今年は、これだけは知っておきたい基礎的な事柄を連載したいと思います。

シイやタブなどの常緑樹は「鎮守の森」と呼ばれて大事にされる反面、常緑樹が増えて雑木林が荒れたとも言われます。どういうことなのでしょう？ 神奈川県の下地では、雑木林を手入れしないとシイやタブなど常緑樹が再生してきます。つまり鎮守の森のような原生林に戻っていくわけですが、鎌倉の里山では原生林に戻しても自然が豊かにならないことが分かってきました。実際、シイの木が多い林を観察すると、植物の種類がとても少ないことに気づきます。これは日当たりが悪いだけでなく、関東地方の常緑樹林が数千年前の温暖化で西日本から進出してきた新しい林であるため、シイの木と一緒に生えるような植物がまだ少ないのです。昔から住んでいる地元の人や、自然に触れている市民は常緑樹林に生きものが乏しいことを実感していますが、行政の評価では常緑樹林は原生林に近いので自然度が高いとされています。それは1960年代から70年代に広まった古い学説がそのまま適用されているからです。当時は、乱開発や植林から原生林を守ることが急務とされた時代で、雑木林の荒廃はまだ目立っていなかった時代なのです。当会が取り組んでいる、雑木林や田畑など、多様な生物を育む自然度の高い里山の保全は80年代以降に広まった新しい考え方ですが、自然保護をしている人の中にも未だに発想の転換ができない人もいます。一般の人たちには、山奥の原生林と里山の雑木林の保全の在り方が同じように考えられ混乱しているのでしょう。今、雑木林が放任されて約半世紀になります。昔の里山からは想像できなかった新しいタイプの林になりつつあります。すべてを昔の雑木林に戻すことは無理でしょう。生活の場であった里山に、生態系や教育、市民参加の視点を取り入れながら、現状に則した新しい雑木林との付き合い方を考えねばなりません。地域により、団体により、その答えは一つではないでしょう。新しい雑木林とはについて考えていきたいと思えます。

谷戸の裏方③

～炭焼き小屋の屋根の修復～

全面開園以前に建てられた炭焼き小屋は老朽化が進んでいます。炭焼きは現在休止中ですが、収穫物の干し場として活躍しています。毎年少しずつ手入れをしていましたが、今年は全面的な修復をしました。材料調達から慣れない軽トラックの運搬、建てつけまでを終日詰めての作業でした。会員の有志の方々の活躍のおかげです。活動に来る会員は、美しい雑木林を背景に立派に若返った小屋を、ほっとした気持ちで見守っています。炭焼きの煙がここにたちのぼるのを思い浮かべながら。





谷戸往来 谷戸往来 谷戸往来

深沢小ふれあい広場に協力

10/27(土)、PTA主催の行事に地域として協力しました。5年生の作った味噌を使った谷戸鍋600食を提供し、さつまいものつるの佃煮も好評でした。谷戸鍋を作る釜の大きさに目をみはる子どももいました。



“サトイモとどろんこ”を開催11/7(水)

かまくら子育て支援グループ懇談会主催の活動に、40組の親子が参加し、畑班が育てたさといもを素手で掘り出しました。子どもたちは次第に大胆になり、どろんこになって遊んでいました。《感想》今回は、お隣の畑の大豆や干してあった小豆やゴマなどに関心を示したお母さんもいらっしゃいました。当日は、落選したけれど雰囲気だけでも見たいと、来園した方もいらしたそうです。毎年、蒸かし上がったおイモの周りに集まる子どもたちの姿が、なんともかわいらしいですね。自宅でも蒸かしてみるのが、谷戸の味には敵わず。あの環境だからこそなのですね。(井上比奈子)

ご寄付をいただきました

皆様からご寄付をいただきました。活動資金として有効に使わせていただきます。

かまくら子育て支援グループ懇談会様 岡野万里様 黒谷秀夫様 野田真紀子様 館鼻靖美様 市川由美子様 安田紀代子様 吉野俊雄様 松村正治様

アジアの研修生が谷戸訪問 11/18(日) NGO「PHD」主催

日本で1年間、農業や保健衛生の研修を行うネパールとインドネシアの留学生が谷戸を訪れました。《感想》☆いろいろお世話になりました。お会いできてうれしかったです。(アドリザル)☆おいしいごはんを食べました。いろいろな話すことができました。(アチャンマラマ)☆研修生にとっても日本の都会でこのようなことをしていることは強い驚きだったようです。ありがとうございました。(PHD協会 坂西)



はさの片づけ作業



鎌倉「てらこや」の活動が無事に終了

今年も当会が、米作り体験を指導しました。《感想》大変だったのは田植えです。ケガをしていたので片手で一本ずつ植えました。やっぱり田んぼの中はどろどろしていて気持ちいいです。最後のもちつき最高!

(3年 広田 泰佑)

富士塚小の地域交流授業

11/29(木)、富士塚小4年生が、当会会員の川上克己さんから昔の子どもの話(紙芝居)を聞き、竹馬、篠笛作りを体験しました。



秋の谷戸まつり大賑わい!

11/25(日)、大勢のみなさんに、新米のお餅やおにぎり、谷戸鍋を振舞い、正月飾り作り、木工作(カエルの合唱)を楽しんでもらいました。当日の炊き出しには近隣町内会のみなさんにお手伝いいただきました。ありがとうございました。

収穫物を寄付しました

今年もたくさんの収穫物が獲れ、被災者支援の炊き出し、近隣町内会、青空自主保育、深沢地区社協(福祉バザーで販売)、鎌倉風致保存会など 10 数団体に寄付しました。

恵泉女子大学が訪問 12/9(日)

11 人の学生が谷戸を訪れ、堆肥作りなどを体験しました。《感想》☆谷戸の活動が人びと



の良い交流の場になっているのは、谷戸の存在が人びとを繋げているのかなと思いました。(鷲尾いずみ) ☆子どもたちが自然と触れ合える場所を残すという母親目線の考え方にとても共感でき、素晴らしいことだと思いました。(大澤瑞生) ☆すべての物が無駄なく利用されていて、循環を目で見れたのが刺激になりました。(大森晶子)